

2020年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010101

1. 計画名称

茅野市子ども・家庭応援計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各施策ともコロナ禍の中で、人を集めること、一度に多くの人が参加する行事の実施が困難であった。相談件数も前年比では増加しており、児童生徒に対する心のケアへの対応を重点的に実施した。それぞれの部署で、活動内容を工夫しながら、学びの継続を行った。
今後の重点化施策番号	9	説明	昨年度から地区子ども館の在り方について検討を進めてきている。安全管理については統一的利用規約を定め運用が始まっている。利用者が少ない午前中と土曜日の開閉館についてCCも含めた検討が必要である。さらに今年度実施する子どもの居場所づくり事業が、将来的に地区子ども館を核とした事業として継続することも見据え事業の推進をしていく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実	やや遅れている	・コロナウイルス感染拡大防止のため、講座の中止や、講座の参加者数に定員を設けたことにより参加者数が減少した。	コロナウイルス感染対策を行う上で、子どもを預かる託児保育つきの子育て講座については、子どもと託児保育士が密接な状態になることから、開催が難しい。	今後のコロナウイルス感染拡大状況にもよるが、託児保育を行わず、親子と一緒に学び、家庭教育につながるができる講座を検討していく。
2	乳幼児期の保育・教育の充実	おおむね順調	公立保育園、認定子ども園、私立幼稚園において、入所を希望する児童を全て受け入れることができた。幼保小連携事業の実施により、小学校1年生における学校生活の満足度もおおむね目標を達成している状況である。	加配を必要とする子どもは年々増加している一方、職員採用に応募する者は減少傾向にあり、保育士不足により、入園希望者を全て受け入れる事が難しくなることが予想される。	昨年度から検討している保育士が働きやすい環境を整えるためのICT化を今年度も検討し、業務の効率化を図る。
3	学校教育の充実	おおむね順調	施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度の向上、教職員の時間外勤務の減少ともに成果が表れている。 施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化し、児童生徒のみならず家庭を含めた支援、専門的家の関わりが必要なケースが増加している。それに伴い教職員の負担も増加していることから、育ちあいちのを核とした包括的な支援体制をより充実させていく必要がある。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となってくる。学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの人材確保と学校運営委員会の充実を図る必要がある。
4	体験機会の充実	遅れている	予定していた事業が実施できなかった。	リーダーズクラブの活動ができなかったことで、今後の会員が減少すること、技術の継承が困難となった。	コロナ禍における、活動を模索すること、また、地区・単位育成会の支援を継続していく。
5	多様な課題に対する取組の充実	おおむね順調	道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育(心もよつばのクローバープラン)を基に人権教育を進めている。また、新型コロナウイルス感染症についての正しい知識の習得、差別・偏見を生まないための学習を実施。	新型コロナウイルス感染症に係るいじめや偏見の未然防止のために人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。	インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育も進めていく。

※6つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	茅野市子ども・家庭応援会議	・広範囲にしっかりと施策を実施していると思います。 ・コロナの収束が見えない中、少しずつ活動出来る所を工夫してもらえればと思います。	今後も、子どもが生まれる前から18歳になるまでを一貫して子どもとその家族の子育て・育児を応援、支援していきます。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、工夫し事業を実施していきます。
開催回数	1(書面)		
参加延べ人数	20		

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」

3.各施策等における評価内容と改革改善(6つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	子ども・家庭への支援の充実	順調	アセスメント作成による課題の整理、支援方針の策定により、関係機関との連携(チーム支援)のもと、それぞれの役割を明確にし、責任を持ちながら子どもとその家庭全体を支援することができた。更に、定期的な進捗状況の確認を行うことで支援が切れることなく対応することができた。	継続支援と専門性を求められるケースが増加していることから、職員体制の強化が必要となっている。	複雑な課題に対応できるよう各職種を集結したチーム支援の実施、関係機関との情報共有を継続して実施していく。職員の技術向上のため各種研修会の参加。 正規職員(社会福祉士)の配置による体制・機能強化を行う。
7	保健・福祉事業の充実	おおむね順調	妊娠届出をした妊婦の割合は高い水準を維持しており、産婦検診の受診に繋がっている。また、乳幼児健診の受診率もほぼ目標を達成できた。	感染対策を講じながら事業を進めたが、当初予定が中止・変更となり、新たな日程調整や相談方法が課題となった。	・乳幼児健診等の事業は、引き続き感染予防対策を講じて行う。 ・子育てに関する相談等の対応について、母子との丁寧にかかわることにより、相談しやすい環境を構築する。 ・パパママ講座における歯科指導の改善を検討する。
8	地域で支える子育て応援の充実	おおむね順調	国県からの補助金や加配教員の配置が見込まれないため、市内の各学校に茅野市型コミュニティスクールを構築し、事業に取り組んでいる。また、地区子ども館の運営やどんぐりネットワーク茅野の取組を通じて、子育てに関わる仕組みづくりを行っている。	コミュニティスクールについては、今後、市内小中学校に置かれている「学校評議員」との関係をどのようにしていくかが課題である。	地域と共にある学校づくりを目指すために、引き続き全小中学校に活動費を配分し活動を支援していく。(学校運営委員会の委員は無報酬) また、安全に活動いただくためにボランティア保険分も支援する。
9	居場所づくりの推進	おおむね順調	地区子ども館について、地区運営委員会と現状を共有し、運営方法等について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	学童クラブ支援員の確保と質の向上が求められている。	地区子ども館の安全管理について、これまでできていなかった学校との安全管理に係る認識の共有を図ることで、全地区子ども館統一的な利用規約を定め、周知することができた。
10	親育ちの推進	おおむね順調	一日保育士体験実施及び親支援講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止や講座の規模縮小を行い開催した。一日保育士体験は、親自身の子育てを見直すきっかけとなり、保育に対する理解の向上につながっている。また、講座は親の育児不安やストレスの解消に繋がっている。	一日保育士体験への父親の参加が少ない。また、各種講座への参加者が減少傾向にある中、コロナ禍により更に参加者が減っている状況である。	乳幼児健診や子ども館にきている親に声かけをするなど機会を捉えて、講座への参加を促すと共に、講座内容のわかりやすい広報や一日保育士体験の良さを積極的に伝える。講座へ参加した者同士が、顔見知りとなりアドバイスやサポートをし合う関係づくりができるような機会を提供する。
11	子育てを通じて学び・育ち合う環境づくりの推進	おおむね順調	講演会について、必要最低限の人数を参集したうえで、Youtubeによる動画配信を行うことで、会場に足を運ばずに安心して講演を聴いていただくことができた。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大期における開催形態についての確立させる必要がある。	講演会について、必要最低限の人数を参集したうえで、Youtubeによる動画配信を行った。
12	夢のある子どもの育成	おおむね順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、例年より活動ができなかったが、リモート座談会等新たな試みで大人との関わりを持つことができた。	活動意欲のあるメンバーの減少に加え、コロナの影響により予定していた活動ができなかった。	内容を刷新し、CHUKOらんどテクノノを利用する中高生を中心にメンバーを募り、自分たちの活動や市の取組を紹介する動画を作成・編集、YouTubeやSNSなどに投稿することで、子どもの社会参加を図るとともに、自己実現の場を作る。